

超活性NK細胞療法

超活性NK細胞療法とは

超活性化NK細胞療法とは、採血によりNK（ナチュラルキラー）細胞を体外に取り出し、培養・活性化した上で、点滴で体内に戻し、がん細胞の破壊を目指す治療です。

NK細胞は「リンパ球」の10～20%を占め、がん細胞に対して非常に高い攻撃力を発揮する細胞です。また、抗原抗体反応（一度認識したがん細胞を攻撃することはできるが、認識したことのないがん細胞は攻撃することができない）がないので、ほとんどのがん細胞に対して攻撃することが可能です。



超活性NK細胞療法の特徴

がん細胞に対する攻撃力が高い

「リンパ球」の10～20%を占めるNK細胞は、がん細胞に対して非常に高い攻撃力を発揮します。



ほとんどのがん細胞に対して攻撃可能

NK細胞には抗原抗体反応がないため、ほとんどのがん細胞に対して攻撃することが可能です。

副作用が少ない

超活性化NK細胞療法では、患者様ご自身の免疫細胞のみを体内に戻すため、副作用はほとんどなく、体への負担も少ないので、ご高齢の方でも受けることができます。

免疫細胞を体内に戻した当日、まれに38℃程度の発熱が起こる場合もありますが、これは免疫細胞ががん細胞を攻撃することで起こる現象です。通常、数時間後には熱は下がります。

樹状細胞ワクチン療法の流れ

1 来院・問診・採血

当クリニックにご来院ください。問診後、採血を行います。

2 がん抗体の認識・培養

患者様から採血した血液中の樹状細胞にがん抗体を認識させ、2週間培養します。

3 皮内注射

2週間後、再度ご来院頂き、培養した樹状細胞を皮内注射して体内に戻します。

4 採血・培養・皮内注射

以後、2週間ごとに「採血」→「培養」→「皮内注射」というサイクルを、計6回実施します。
樹状細胞ワクチン療法は、6回の治療で1クールとなります。



旭 泌尿器クリニック

AKIRA URO CLINIC

TEL : 06-6770-0505

<http://www.akira-uro-clinic.jp/>